



GoodJob!

ぐりーんじょぶ NEWS

GreenJobNews

♪働く夢を現実に

香川県立川部みどり園

令和2年12月1日発行

No.32

ニンニクの種割りから出荷作業まで

香川県のホームページによると香川県は2018年産の野菜生産出荷統計でニンニクの収穫量が全国で3位となっています。就労移行支援班では、2010年からニンニク農家さんで実習をさせていただいています。今回は利用者さんが関わらせていただいている作業をご紹介します。

9月 ニンニクを割って、一粒ずつ分けて鱗片にします。これが種になります。中には鱗片に小さい鱗片がくっついておんぶしたようになっていることがあります。それをおんぶ鱗片と呼びます。おんぶ鱗片のまま育ったニンニクは出荷できません。おんぶ鱗片には3mmほどしかないものもあります。利用者さんは目を凝らしておんぶ鱗片を見つけ出し、外していきます。そのあとは重さを量って仕分けていきます。



10月 種の植え付け作業です。鱗片にした種を長さ30mほどの畑で、張ったロープに合わせ植えていきます。農家さんオリジナルの定規を使って等間隔に植えます。中腰で仕事をするので時々、背伸びをしてリフレッシュしながら続けます。



11月12月 芽が出て双葉から本葉が出たらマルチを張っていきます。マルチの上から芽を探し、お箸で小さく穴を開けて優しく葉を出します。今回は初めて除草剤を撒く作業もしました。まんべんなく薬剤を撒いていくためには指先の力加減が大切です。



5月 収穫と出荷作業です。収穫したら泥を落としてきれいにします。ニンニクを傷つけないように専用のナイフで形を整えていきます。自分もケガしないように気をつけないとけません。出荷規格に合わせて、茎の長さを切り、サイズ分けをします。それをオーナーさんが袋詰めをして出荷します。香川県産ニンニクのほとんどが東京へ出荷されるようです。

私たちが植えて収穫したニンニクが遠く離れた場所で食べてもらえると思うと嬉しくなります。



今年も ビルメンテナンス協会から清掃講師の方に来ていただきました。

基本から丁寧に教えていただき、利用者さんたちはやり方をメモに取って、見返しては自主練習に励んでいます。

